

ご 挨拶

会 長 入 江 實

今回、第30回日本核医学会総会の会長を拝命し、大変光栄に存じております。学会の準備のためには昨年来、理事、評議員、会員の皆様方の多大なご支援のもとに、教室の関係者一同全力をあげて努力して参りました。その中でも特に重要な部分はプログラムの編成で、プログラム委員会の先生方のご努力により、この号にみられますような立派な内容のものをつくることができました。一般演題の発表は590題、シンポジウム4、招待講演6題、教育講演6題、それに会長講演を加えさせて頂き、特別講演としては招待講演者の一人であるフランスの Syrota 教授に最近の研究を中心としたお話をお願いすることに致しました。

核医学はアイソトープの医学的応用ということを中心とした、いわば横わりの学問であり、学問の広い領域にまたがった方々の協力の下に発展して行く領域であります。したがって普段は余りお目にかかれない方々と、学会の場で広く交流できるというところにこの学会の大きな意義があると思います。その意味もあって今回会場として1990年9月に完成する新高輪プリンスホテル国際会議場を全館借切ることになりました。2階、3階を会議会場、1階を呈示会場として自由にお使い頂き、充実した場となりますよう心から祈念している次第であります。

最後に本学会に関係して頂いた皆様方のご協力に厚く御礼申上げ、第30回日本核医学会総会が多数の会員の参加により、きわめて有意義な会合となりますようご協力をお願い致します。

なお、プログラム編成にあたり、下記の委員の先生方にご尽力頂き、あらためて謝意を表する次第です。